

なでしこ暮楽部 有野台（高齢者等相談等事業）

取り組み内容のポイント

高齢化率が30%を越えた団地において、集合住宅の一室に「相談ルーム」を設け、地域住民の医療・福祉における相談対応を行い、「無縁社会」に一石を投じる。また、高齢者の孤独死の抑制及び障害者や子育て支援等の拠点づくりの基地としての役割を果たす。

兵庫県

社会福祉法人

恩賜財団 済生会支部兵庫県済生会

〒651-1302 兵庫県神戸市北区藤原台中町5丁目1番1号
TEL：078-987-2222 FAX：078-987-2221

❖法人設立年

明治44年5月30日

❖法人実施事業

- ①経営施設数合計：3施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
病院…1、特別養護老人ホーム…1、地域密着型小規模特別養護老人ホーム…1、介護保険事業…8、重症心身障害児（者）通園事業…1

❖法人の理念・経営方針

理念

生を濟う（いのちをすくう）

経営方針

社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実・効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明性の確保を図るものとする。

❖取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

❖取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

特別養護老人ホーム ふじの里

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 入所定員：75名

❖活動内容

- ◇活動開始年：2011年4月
- ◇活動の対象者：地域住民
- ◇活動の頻度・時間：
月曜日～金曜日 9：00～17：00

◆活動実施の背景、実施にいたった理由

施設が受託している地域包括支援センター管轄区域内の「有野団地」は昭和40年代に開発されたURの団地で、高齢化率は、神戸市全体の22.5%より高く、独居高齢者や高齢者のみの世帯も多く、地域との繋がりも少ない実態がある。地域で活発に実施しているふれあい喫茶や昼食会、施設での交流会や行事に参加している高齢者はいつも同じ顔ぶれであり、本当に支援の必要な高齢者はそういう場には参加していないのが現状である。また、法人の創立理念である生活困窮者支援を積極的に展開するためにも、ニーズの掘り起こしが必要であり、同じ法人の病院と施設が共同で医療・福祉の推進を図り、地域の「安心」と「交流の場」を提供することと、地域で住民同士が助け合えるよう「新たな地域見守りの仕組み作り」を構築したいと考えた。

◆実施内容

独立行政法人都市再生機構（UR）西日本支社長、神戸市長、北区社会福祉協議会常務理事、兵庫県済生会業務担当理事の「4者連携」の元、平成23年3月2日に確認書を取り交わし、UR所有の有野団地の住居を活用し「高齢者等相談ルーム」を4月1日に開設した。月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで、2名（社会福祉士1名・見守り隊1名）を配置し、団地内の訪問、見守りを行い、相談室でも高齢者等の相談を受ける。神戸市や北区社会福祉協議会からのバックアップやアドバイスもある。法人の病院からは、毎月第1水曜日に病棟の看護師長、第3木曜日に医療連携室のMSW、施設からは毎週火曜日に介護支援専門員が相談室を訪れ、専門的な相談を受けている。この事業は、法人が昨年7月に社会貢献事業の一環として、URに空き住居の提供を要請し、実現した。UR西日本支社では初めての事業ということだが、趣旨に賛同し、市との連携協定も含め、いろいろと協力していただいている。

◆活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

高齢者に集まっていただく手段としては、単純に相談室で喫茶を開催すれば人は集まるが、私たちの活動の目的は、他者との関係が薄い人への関わりである。訪問をする中で閉じこもりがちな高齢者を発掘し、その人の知人や顔見知りを訪ね、つながりを探す地道な活動を続けており、4ヶ月経過した現在、高齢者が高齢者を見守る「自主見守りグループ」（1グループ約5～7名）が2組でき、月に1回「なでしこ暮楽部」で情報交換を行っている。

相談室を開設するにあたり、地域の自治会等に説明会を実施した。UR自治会は、高齢者等が身近に相談できる窓口ができるということで、自主的にパンフレットを配布して下さった。また、URから節電効果を含めてのグリーンカーテンのゴーヤセットが届くと、職員の手間を省こうと住民が自主的に植栽し、休業日の水やり当番を決めて、ゴーヤの生長を見守っている。相談者の中からは、ボランティアの希望も多くあり、顔合わせを含めた会合を開き、地域の輪が広がってきた。最近は電話相談や来室もあり、医療や介護、生活困窮等専門的な相談も増加している。

◆今後の展開

有野団地はURだけで73棟2140戸の住宅であり、全戸を訪問するのは大変な作業とは思いますが、まず足で対象者の情報を得る必要がある。また、相談件数は増加してきているが、地域に相談窓口として周知されるには至っていない。積極的に広報活動を行いながら、地域住民に必要とされ活用され

る窓口を目指し、新たなコミュニティー作りに挑戦していく。このモデル事業が各地の集合住宅に普及し、「無縁社会」ではなく「絆社会」につながっていくよう活動する。決して独りで誰にも気づかれずに人生の最後をとじることが無いよう、誰かとつながっている地域を目指す。

◆主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
人件費	4,400,000円	なし	0円
賃借料	376,000円		
その他諸経費	724,000円		
<合計>	5,500,000円	<合計>	0円

- ・取り組みに係わった職員数 4名
（職種等：参与、社会福祉士、見守り隊、事務員）
 - ・取り組みを実施している施設の事業規模
（平成22年度決算の事業活動収入） 1,017,584千円
- ※法人全体の事業規模（同上） 6,054,419千円



〈玄関側外観〉



〈相談ルーム〉



〈活動風景〉